



お知らせ

同時資料提供先：合同庁舎記者クラブ  
中国地方建設記者クラブ  
広島県政記者クラブ  
港湾新聞社  
日本海事新聞社  
都市計画通信社

講演会「平成25年度 第2回 実りある学舎(まなびや)」開催！

**南海トラフの地震を対象とした  
強震動評価へのSPGAモデルの適用**

講演会「平成25年度 第2回 実りある学舎(まなびや)」を開催します。

実りある学舎(まなびや)とは、学識経験者や各分野のスペシャリストを講師に招き、最新の情報や気になる話題などをテーマとした情報収集・発信の場として開催している講演会です。

平成25年度 第2回 実りある学舎 (まなびや)

- 日 時：平成26年2月27日(木) 15:30～17:00
- 場 所：国土交通省 中国地方整備局 港湾空港部 会議室  
(広島市中区東白島町14-15 NTTクレド白島ビル13階)
- 定 員：40名 (事前申し込み先着順)
- 参加費：無料
- 内 容

テーマ：南海トラフの地震を対象とした強震動評価へのSPGAモデルの適用

講 師：独立行政法人 港湾空港技術研究所 地震防災研究領域

地震動研究チーム チームリーダー 野津 厚 氏

—問い合わせ先—

国土交通省 中国地方整備局 広島港湾空港技術調査事務所 調査課

電話番号：082-545-7016

担当者名：小畑・玉井

事前申し込みは、広島港湾空港技術調査事務所ホームページから

→ <http://www.pa.cgr.mlit.go.jp/gicyo/>

広島技調

検索

南海トラフの巨大地震（Mw9.0）の地震動の元となる震源モデルについては、内閣府によりSMGAモデル、独立行政法人港湾空港技術研究所によりSPGAモデルの2つのモデルが公表されている。

## SPGAモデル

SPGAとは、「Strong-motion Pulse Generation Areas」の略称。

東北地方太平洋沖地震をはじめとする海溝型巨大地震において、特徴的な強震動パルスのパルス幅と調和的なサイズのサブイベント（SPGA）から構成される震源モデルであり、サブイベントのサイズは対象地震の場合一辺が数km程度。

耐震検討用の地震動の評価を主目的としている。

モデルの妥当性検証方法は、耐震検討を視野に入れ、地震波形、スペクトル、及びPSI値が適切に評価できていることを確認することにより行っている。

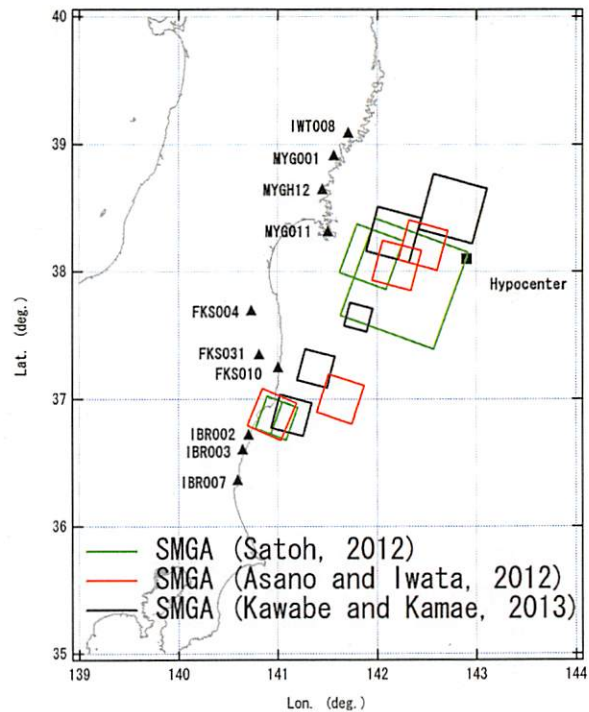
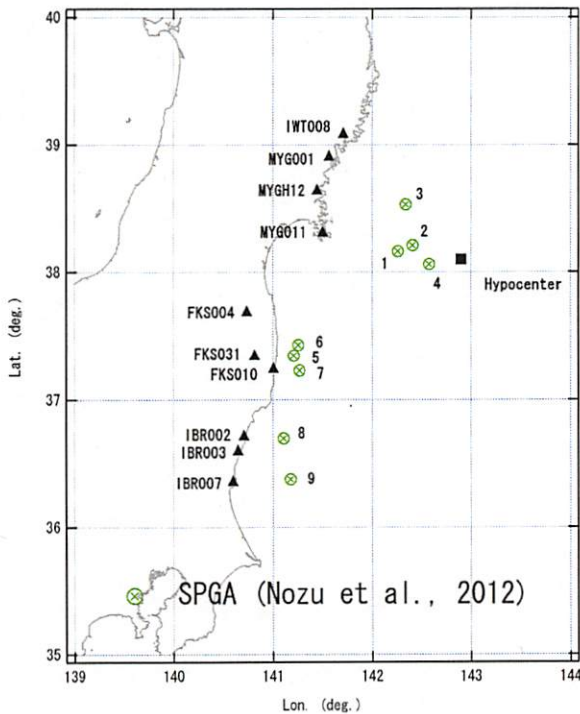
## SMGAモデル

SMGAとは、「Strong Motion Generation Areas」の略称。

より広い領域（対象地震の場合、一辺が数十km程度）からまんべんなく強震動が生成されるとする震源モデル。

地震動の作用により、各地点における震度を精度よく算出することを主目的としている。

モデルの妥当性検証方法は、東北地方太平洋沖地震の観測記録を基に、震度が適切に評価できていることを確認することにより行っている。



### 【強震動パルスとは？】

0.2-1Hz の帯域の速度波形は明瞭なパルスによって特徴付けられている。これらの工学上重要な周波数帯域に表れるパルスをここでは強震動パルスと呼んでいる。

過去において、1995年兵庫県南部地震や1994年ノースリッジ地震のような内陸地殻内地震の際、震源近傍で生じた強震動パルスが大被害をもたらしたことは広く知られている。それに対し、海溝型巨大地震がもたらす強震動パルスの重要性については、これまで十分に認識されているとは言えない。しかしながら、現実に海溝型巨大地震が強震動パルスを生成しており、その周期特性は内陸地殻内地震がもたらす強震動パルスと大きくは異なることから、海溝型巨大地震がもたらす強震動パルスも構造物に大きな影響を及ぼす可能性がある。今後、海溝型巨大地震に対する強震動予測、特に耐震設計を目的とする強震動予測を行う場合には、強震動パルスの生成を意識した震源モデル（SPGAモデル）が適していると考えられる。